

## 事例7

### 利用者プロフィール

氏名：Gさん（80歳／男性）  
居住状況：グループホーム入所  
身体状況：認知症、要介護度3  
親族状況：結婚歴あり。子供なし。



### 本事業利用のきっかけ

本人はアパートで1人暮らしをしていたが、脳梗塞の後遺症により右上下肢不随となり、グループホームへ入所となる。外出も困難になり、金銭管理等の支援が必要となるが、近くに頼れる親戚もなく、担当のケアマネージャーより相談が入る。

### 援助の内容

月1回グループホームへ訪問し、利用料等の支払いの代行を行う。金融機関の払戻し伝票への署名は利き手ではない左手で署名をしてもらっていたが、本人の努力により右手で署名ができるまでに回復。その後の入院中も変わらずに月1回支援をし、入院費等の支払いの代行をした。独居生活をしていたので、支援当初は口数も少なく、グループホームでの生活に慣れるか心配があったが、訪問するたびに表情が明るくなり、施設での生活状況だけでなく、これまでの生活状況などご自身のことを話してくださるようになった。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス

## 事例8

### 利用者プロフィール

氏名：Hさん（51歳／女性）  
居住状況：県営住宅で家族と生活。  
身体状況：知的障害、療育手帳所持  
親族状況：2人の子供と生活。親戚とは疎遠。



### 本事業利用のきっかけ

本人は現在、生活保護を受給中。軽度の知的障害があり、意思の疎通や家事全般に支障はないが、所持しているお金をお金をあるだけ全部使ってしまう傾向があり、家賃や公共料金などの滞納があった。就学中の子どももおり、このままの状況では親子一緒に地域で生活することは難しく、金銭管理の支援を必要と感じたケースワーカーより相談を受けた。

### 援助の内容

一度に多くの現金を渡してしまうと、すぐに使ってしまうことがあるので、1回の支援で約10日分の生活費を払い戻し、月に3回支援している。本事業利用前にあった家賃・公共料金などの滞納は、利用後、少しずつ納付し完納することができた。最近では、食費だけでなく子どものための衣類や文房具類などにも使うことができるようになった。また、今は近所に知り合いが少ないので、子どものことについての相談相手も担っている。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス